



**Giancarlo Dall'Ara**  
1951年、イタリア生まれ。  
観光や地域活性化のコンサルタントを経て、  
2006年、アルベルゴ・ディフーズ協会を  
設立し、会長に就任。  
国立バレージャ大学教授（1992年～2010年）として  
観光マーケティング論の教鞭をとる。

大正大学構内の、すがも鴨台観音堂の前で。

## 巻頭インタビュー

# ジャンカルロ!

アルベルゴ・ディフーズ協会会長

# ダツラ

## 「アルベルゴ・ディフーズ」というイタリア発の 地域活性化の試みを、日本にも広める

聞き手●渡邊直樹 本誌編集長 構成●丸山貴未子 写真●島崎信一

過疎化した小さな村に、歴史的な建造物や空き家などをできるだけそのまま利用した宿泊施設を作り、地域活性化を図る。イタリアで始まった「アルベルゴ・ディフーズ」という試みが、今大きな注目を集めている。同じような悩みを抱える日本の地方にとっても大きなヒントとなるだろう。コンセプトを考え、試行錯誤を重ねながら事業を育ててきたアルベルゴ・ディフーズ協会会長のジャンカルロ・ダツラさんに話を聞いた。

**渡邊** まずダツラさんたちが展開している、アルベルゴ・ディフーズとはどういうものなのか、お聞かせください。イタリア語でアルベルゴは「宿」、ディフーズは「分散した」という意味で、直訳すれば「分散した宿」ということになりますね。

**ダツラ** 宿泊施設を2つのタイプに分けるとわかりやすいと思います。伝統的な形のホテルというの上に向かって延びる垂直型で、1つの建物の中にレセプション、レストラン、客室とすべての機能を備えています。一方アルベルゴ・ディフーズは、ある建物にレセプションがあり、別の建物には客室があり、また別の建物にレストランがあるというように、ホテルの機能が分散した水平型になっています。

垂直型のホテルと水平型のアルベルゴ・ディフーズはいろいろな点で違ってきます。

アルベルゴ・ディフーズは都会ではなく、小さな村にあることが多いのが1つの特徴です。交通も鉄道の駅が近くにあるところは珍しく、ほとんど車でなければ行けないような場所です。そういったイタリアの村は日本の村と同じような問題を抱えています。高齢者の増加、若者の流出、公共交通の撤

退など状況は同じなのです。でも、アルベルゴ・ディフーズには小さな村にあるからチャンスがあるとも言えます。なぜならバカンスで世界中を旅してきた旅行者ほど、アルベルゴ・ディフーズを訪れるからです。彼らは旅行者の作ったツーリスト向けのメニューを嫌います。アルベルゴ・ディフーズにあるのはそういった作り物ではなく、

昔からの暮らしの中にある本物で、それが彼らをひきつけるのです。

垂直型のホテルでは宿泊客が客室からロビーに移動するとき出会うのはせいぜい同宿の泊まり客ぐらいですが、アルベルゴ・ディフーズでは部屋からレストランに移動する間に村の住人と出会います。時には小さな商店でものを買ったり、話をしたり、関係は水平

に広がっていき、その村のライフスタイルを経験することもできるでしょう。村の家々を取り除いてしまったら、もはやアルベルゴ・ディフーズではなく、

旅行者のために作られた観光用の村になってしまいます。

### 大切にしている理念

**渡邊** その違いを生み出すもの、言い